



龍谷大学 犯罪学研究センター (CrimRC)



シリーズ勉強会 デジタル・フォレンジック鑑定と向き合うために

第2回テーマ 「コンピューター犯罪の裁判事例」

シリーズ勉強会「デジタル・フォレンジック鑑定と向き合うために」は、情報技術を用いた証拠試料の鑑定の知識を得て理解し、司法に適用する上でどのような理論的・実務的問題点があるかを考えるものです。

2003年11月、ブロックチェーンの先駆けであるP2P技術（端末同士によるネットワーク）を用いたファイル共有ソフト「Winny」を開発した金子勇さんが、著作権法違反の容疑で京都府警に自宅とパソコンを捜索されました。ソフト利用者の一部が映画や音楽などのコンテンツを送信していたことから、ソフト開発者である金子さんが著作権法違反幫助で起訴されたのです。

日本インターネット史に残る「Winny事件」。今回は、弁護団の一員として、7年がかりで無罪判決を勝ち取った遠山弁護士が「コンピューター犯罪の裁判事例」について報告します。

第2回公開研究会 実施概要

- 日時：2022年 **12月17日(土)**
18:00-20:00
- 会場：オンライン (Zoom)
- 参加費：無料 ※事前登録制
- 講師：遠山大輔氏
(戸田・遠山法律事務所 弁護士)
- 報告タイトル：

コンピューター犯罪の裁判事例



詳細・申込ページ

次回以降の予定

※時期や内容は変更することがあります

- 2023年1月 第3回「デジタル・フォレンジック試料の証拠保全ガイドライン」講師：大橋充直氏 (ヤエス第一法律事務所弁護士、NPOデジタル・フォレンジック研究会)
- 2023年2月 第4回「音声・話者認識の現状」講師：柘植覚氏 (大同大学情報学部教授)
- 2023年3月 第5回「デジタル・フォレンジック鑑定の証拠能力」講師：徳永 光氏 (獨協大学法学部教授)

問い合わせ先：龍谷大学 犯罪学研究センター
E-mail：crimrc2016@ad.ryukoku.ac.jp
Tel：075-645-2184